

キリストの光 光のキリスト

三位一体の主日 6月3日

(ヨハネ16・12—15)

人は教義を理解して神を信じるようになるのだろうか。

そのところをよく分らないが、少なくとも言えることは、教義よりも体験が先にあるということではなからうか。

聖堂でのある通夜での出来事。亡くなった方の地域の老人会の皆さんが参加していた。司祭は何度も「祈りました。よう」と呼び掛け、しばらく沈黙した後、祈りの言葉を唱える。通夜の祈りが進むにつれて、何かに包まれるような祈りの雰囲気が出ていった。

何度目かの「祈りましよう…」との呼び掛けに応えるかのように、ある方が「南無

「すべて」を信じる

阿弥陀仏…」とつぶやき、あわてて口をつぐんだ。(他の参列者によれば、実際には「南無妙法蓮華経」と唱えたそうだが、発せられた言葉の真偽はわたしにはどうでもよい)。しばらく沈黙した後、その方の心も包み込むつもりで祈りを唱えた。

翌日の葬儀。ミサに続いて行われた告別式で先の老人会の会長が弔辞をさげた。故人との別れを惜しんだ言葉の後、「イエス・キリストのもとで、どうぞお休みください」と、決して流ちょうではない言葉の雰囲気ですべてを結んだ。この方は、イエス・キリストの「存在」を初めて意識されたのかもしれない。通夜も葬儀も参列者の半数

以上はキリスト教の信者で

はないように見受けられた。

説教の時に、参列した皆さんに問い掛けた。この世界に

はさまざまな宗教がある

が、それぞれにそれぞれの神



めて、そして死によってその存在は無に帰するのだろうか。

もちろん、参列者からの答

えを聞いたわけではないが、

先のすべての問いに対しては

「ノー」と答えた。

イエスを通して神について

知ることは少しはできた。だ

が、知ったから神が働いてい

るのではない。神はすでにこ

の世界に働いておられる。信

じているから、その人のため

に神が働いているというわ

けでもない。人が信じていよ

うが、信じていまいが、神は働いておられる。

神はイエス・キリストを世

に遣わし、ご自分の愛、ご自

分の想いを示された。今も聖

霊を通して働いておられる。

イエスが示した神は、すべての神であり、すべての命の与え主であり、すべてを生かしておられる方。「すべて」であるなら、「すべて」であるはず。どのような宗教、宗派に属する人も、いつの時代の人も、どの国の人も「すべての人」は「神」の手中にある。三位一体の神を信じることのできる人は、このことも信じていることができると思

(山元眞||福岡教区司祭/カット||高崎紀子)

今週の福音

4日・月	マルコ 12:1-12
5日・火	マルコ 12:13-17
6日・水	マルコ 12:18-27
7日・木	マルコ 12:28b-34
8日・金	マルコ 12:35-37
9日・土	マルコ 12:38-44